

平成 27 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当	部課コード	120600	TEL	2998-9176		
事業コード	120601	公共建築物修繕計画推進事業		宮繕課				
開始年度		平成 18 年度	→	終了年度	平成 年度			
②事業の概要		事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加		根拠法令			
		分野別計画・指針			建築基準法			
		関連・類似事業						
		総合計画の体系	章 行財政運営	節 行政経営	基本方針	総合計画の実現に向けた計画行政の推進		
		事業開始の背景	既存の公共建築物は、老朽化が進み、計画策定時の10年後には建築物の約65%が建築年数30年を経過する。そこで、建築物の劣化が進行する前の予防保全に取り組むために「所沢市公共建築物修繕計画」が平成18年に策定された。この修繕計画をガイドラインとして市の上位計画である総合計画をはじめ、各分野における施設整備計画との整合性を図りながら修繕計画を推進していく。					
③事業の内容		目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)						
		修繕計画によって、長期的な修繕費を展望し、建物の修繕を計画的に進行管理することにより、単年度に修繕工事が集中する事態を避けて財政負担を平準化するとともに建築物の延命化を図り、既存建築物を有効活用していく。						
		対象(誰を、何を対象としているのか)						
		修繕計画に基づく工事予定件数	対象数	単位	平成 25 年度	26 件		
					平成 26 年度	29 件		
		事業の具体的な内容及び実施方法						
		①修繕計画の進捗状況、及び各施設の改修工事等の計画と整合を図り、修繕計画書を作成する。 ②修繕計画に基づく次年度工事の予算金額の見積を行う。 ③修繕計画の進捗状況を関係する部署に報告する。 ④各施設で実施した工事・修繕経歴(データ)を修繕計画策定システムに入力する。						
④経費		<会計種別>	一般会計	平成 25 年度 (千円)	平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)		
		当初予算		384	302	302		
		決算(見込み含む)		302	302			
		(非常勤特別職員)	(臨時任用職員)	(0.00 人)	(0.00 人)	(人)		
		正規職員人件費		2.50 人	22,220	2.75 人		
		事業費合計		22,522	24,285			
		財源内訳	一般財源	22,522	24,285	302		
			国・県支出金	0				
			その他()	0				
⑤実績		項目名	項目説明	単位	H 25	H 26	H27見込み	将来目標
		活動実績	修繕計画に基づく工事予定件数	件	26	29	28	
			修繕計画に基づく工事実施件数	件	26	19		
⑥成果		項目名	項目説明	単位	H 25	H 26	H27目標値	将来目標
		成果指標	修繕計画に基づく工事実施件数	目標値	26	29	28	
				実績	26	19	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大図る <input type="checkbox"/> 縮小図る	
		目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています	%	達成率	100	66	↑どちらかをチェックしてください
⑦改善点		平成26年度中に改善した点(どのように改善したか、それにより何がどうなったかを具体的に記載してください)						
		緊急に修繕を要する施設について、所管課へのヒアリングを実施し、現地調査の上、優先すべき工事を検討し計画を作成した。これにより優先順位については現状に見合ったものに改善された。						
⑧評価		<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 終了	事業実施方法(複数選択可) <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他	理由	緊急を要する工事が増加する中、財政的にやむを得ず先送りになっている工事が、これらにも今後対応しなければならないため。			
		次年度予算 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		理由	建築後30年を経過する施設が多くなるため、改修工事が多くなる。			
		今年度の状況と今後の方向性						
		雨漏りや、外壁剥落、空調機の不具合等、緊急修繕を要する施設が多い中、予防保全のための修繕に予算が回りきらない状況である。平成25年度で学校の耐震化工事が完了したものの、その間に本来やるべきであった改修工事が先送りになっているため、改めて計画を見直し、平準化する必要がある。また、今後は昇降機器が一斉に老朽化、交換の時期を迎えることやアスベスト含有建材への修繕対応などについても併せて検討していく必要がある。						
		評価日	H27.7.28	評価者職氏名	宮繕担当参事 北田 賢司			
⑨環境影響		有益な環境影響	予防保全による既存建物の良質なストック化	有害な環境影響を及ぼす原因活動	修繕工事の施工	規制を受ける環境法令等	無	
						緊急事態	無	